

策定年月	令和5年3月
見直し年月	令和〇年〇月

# 麦国産化プラン

産地名：武雄市

(作成主体：株式会社 江口農園)

# 1. 麦生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

<麦>

《現状》

○大麦については近年豊作が続き、過年度産在庫の繰り越しが発生し、令和3年産までは供給量が需要量を上回る状況が生じたが、令和4年産以降は最終実需者における外国産大麦から国内産大麦への原料切り替えが進んだことから、需要量が大幅に伸びている。このため、従来品種よりも多収が期待できる「はるか二条」の作付割合を拡大することで、大粒大麦全体の供給量の増加に繋げたい。しかし、麦は畑作であり当地では水田で栽培している為、暗渠・明渠等の排水対策が不可欠であり、その場合、水稻及び大豆収穫後から排水対策、土壌改良、麦播種となると播種時期までに時間が掛かり過ぎて適期播種になってない状況である。

《現場課題》

- 1) 播種が遅くなる事での茎立数を増やす為播種量を増加させる必要があり、種子コストが増している
- 2) 小麦の播種期が遅くなる事でシロトビムシの影響を受けて発芽不良が多々発生している
- 3) 時間が無い中で耕うん作業を行う事で土壌のクレが大きくなり発芽揃いが悪く、除草剤効果が低下している

## 2. 課題解決に向けて

・現状のトラクター性能(46ps→88ps)に切替えし、それに伴う今回の事業申請機械のロータリ幅(160cm→220cm)、播種条数(5条→6条)を増やし作業時間を短縮する事が出来、播種能力も向上できる。又、圃場内土壌のクレが細くなり、除草効果も向上できる。

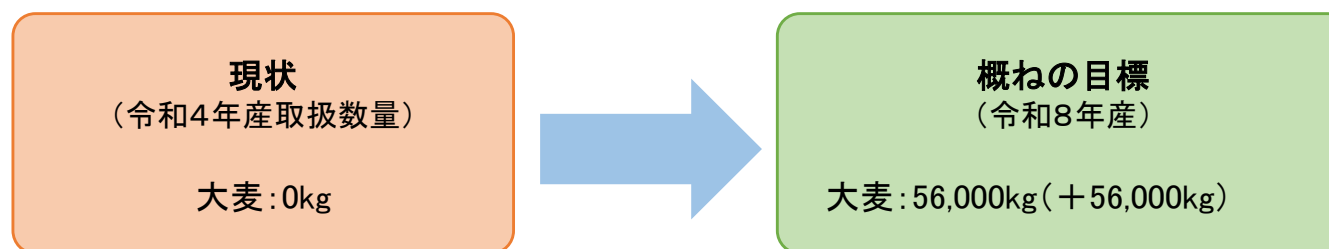
※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

<麦>

民間流通麦佐賀県連絡協議会および民間流通麦佐賀県意見交換会において、実需者の需要動向を把握し意見交換を行い、需要に応じた生産計画を策定する。



主要な実需者

○大麦 非公表

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

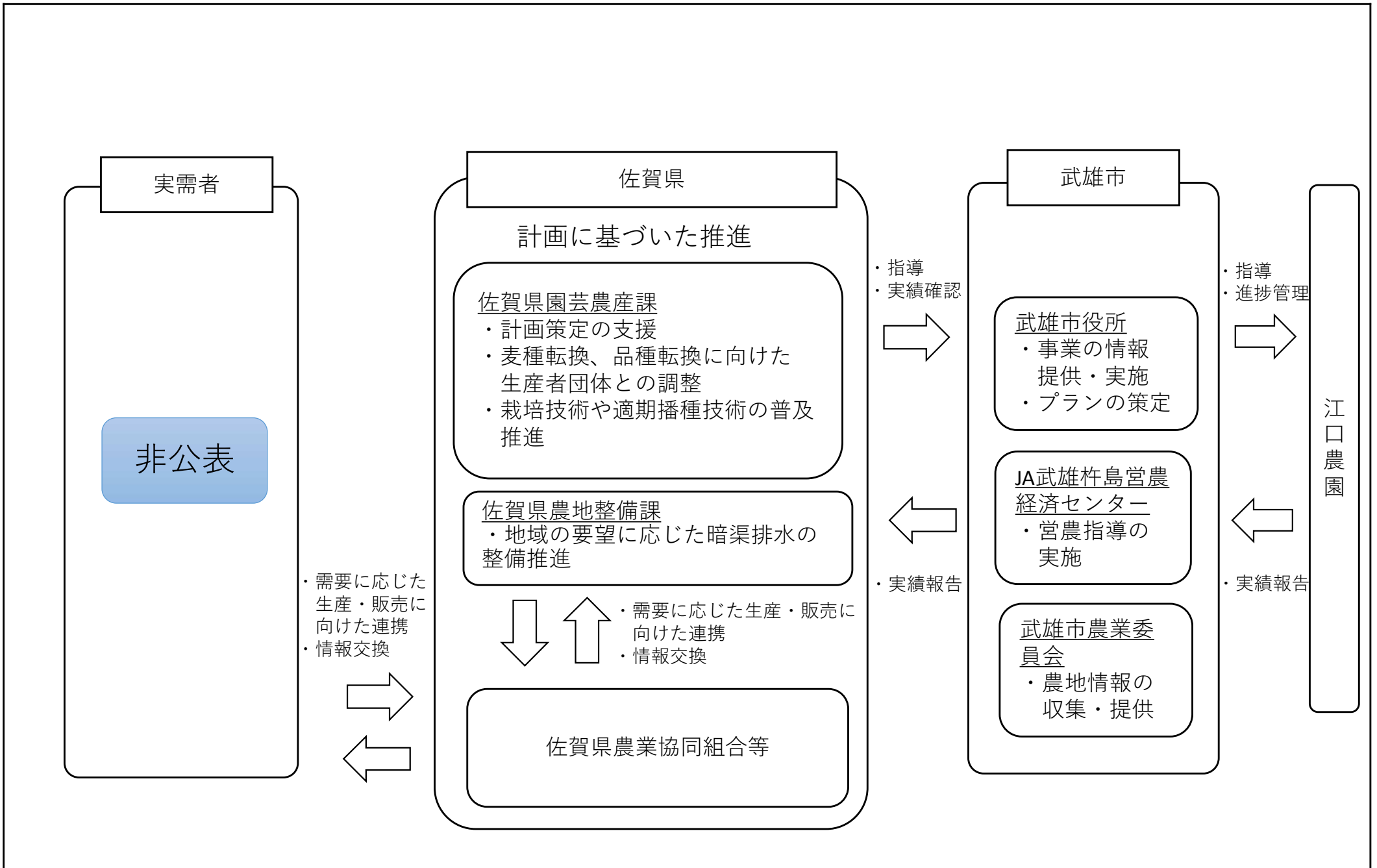
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。